

奥能登公立 4 病院機能強化検討会 部門別分科会（産科医療・小児医療）

令和 8 年 7 月 24 日
石川県健康福祉部

資料内容

- 分科会とりまとめ案（概要）p 3～5
 ※全文は別紙

- （参考資料 1）
 能登北部 4 市町の母子保健担当課に対する調査・回答 p 6～12

- （参考資料 2）
 妊産婦を対象とした調査・回答 p 13～20

分科会とりまとめ案（概要）

- ・ 分娩は、まず、**母子の安全を確保することが何よりも大切**であり、近年の産婦・新生児死亡事故を踏まえ、従来よりもさらに安全を重視すべき。
- ・ 赤ちゃん協議会においても、産科医は複数配置が必要と指摘された。
- ・ ローリスクが予想される場合であっても、予測できない事態に備え、**24時間365日体制で対応することが必要**。
- ・ 交代制勤務に対応できる相当数の医師、助産師等による体制を確保することが必要。
- ・ **分娩数が限られる奥能登において、こうした体制を確保することは、極めて厳しい**。
- ・ このため、検討会で提案された、**「ワンホスピタル体制」を構築することが適当**。

- その上で、妊婦や家族の負担軽減策、救急搬送体制の充実、ドクターカーや医療DXの活用など、さらに安心を与えることができる仕組みとしていくことが必要。
- こうした支援策については、新病院の開院を待つことなく、可能なものから速やかに対応していくことも必要。
- また、公立の病院として、住民の「地元で分娩したい」との願いに応える努力も必要。
- 例えば、県では、産科医をはじめとする医療従事者の確保策を国に要望しているところであるが、こうした対応策を引き続き検討するなど、奥能登での分娩実施の環境整備に向けて、様々な可能性を探り続けていってはどうか。
- 奥能登で持続可能な医療提供体制を構築するためには、医療分野のみならず、あらゆる方面から、奥能登の活性化を図るべき。

参考資料 1

(能登北部 4 市町の母子保健担当課に対する調査・回答)

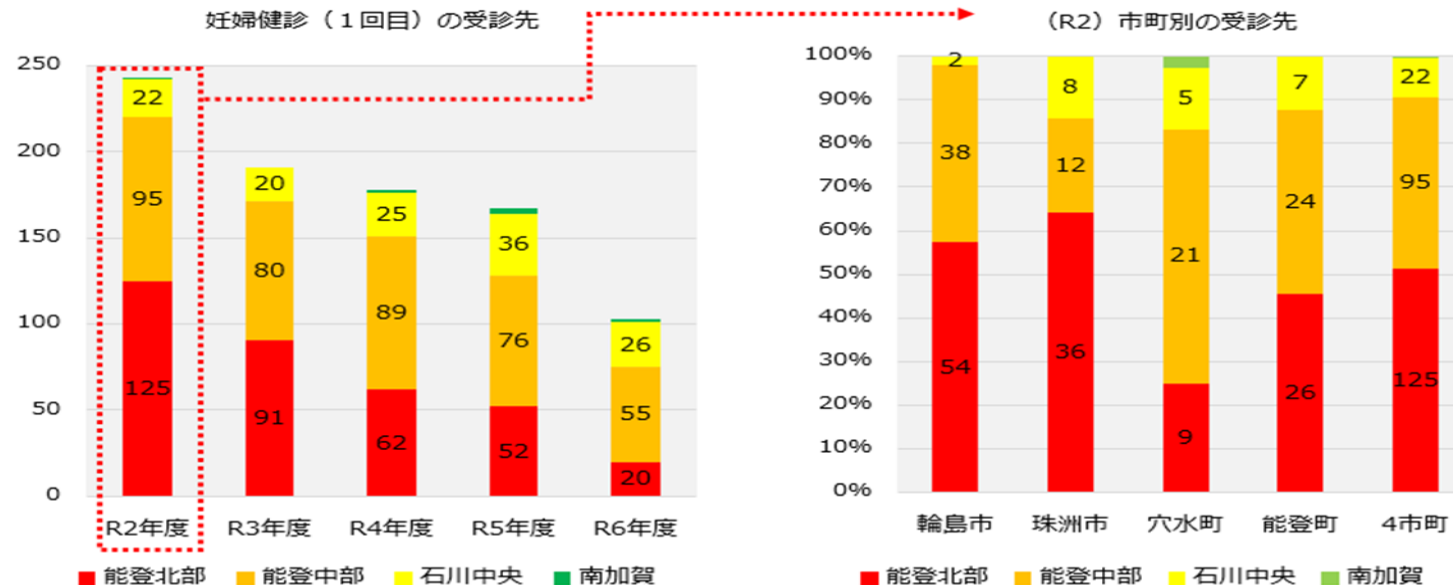
能登北部 4 市町の母子保健担当課に対する調査

奥能登地域内で分娩が可能な時期にも、妊婦健診の受診先に、地域外の医療機関を選択する妊婦が一定数いた。

このことに関して、能登北部 4 市町の母子保健担当課に対し、**所見**を照会した。（照会日：令和 8 年 6 月 24 日）

<照会文>

- 能登北部 4 市町に在住する妊婦の妊婦健診（1 回目）の受診先は、令和 2 年度においては、能登北部の公立病院が半数以上を占めていました。しかし、能登北部の公立病院を受診する割合は、年々減少し、令和 4 年度は、約 35%（3 人に 1 人）まで減少していました。また、市町別では、穴水町や能登町の妊婦は、能登北部の公立病院を受診する割合は、令和 2 年度の時点において、半数未満となっていました。（下記グラフ参照）
- 妊婦健診の受診先の選択には、①医療機関へのアクセス、②医療機関の医療の質・専門性（専門医、助産師等のスタッフ）、③医療機関のアメニティ、④知人の勤務などによるプライバシーの問題、⑤勤務先との距離、など様々な要素が関わっていると考えられます。
- ついては、貴自治体に在住の妊婦に係る妊婦健診の受診先選択の実情を踏まえ、妊婦がどのような点を重視して、妊婦健診の受診先を選択していると考えられるか、所見をお聞かせください。（自由記載）



能登北部 4 市町の母子保健担当課からの回答①



自治体	所見
A	(基本的認識) - 妊婦は妊婦健診を受けているところで出産することが通例だと考える。 - 特に初産を控えた妊婦の感情からすると、母子ともに細心の注意をもって安全安心を確保したいため、「正常分娩」の医療機関しかない能登北部よりも、「異常分娩」に対応できる石川中央等の医療機関を選択する傾向がある。 (その他の選択理由としては、帰省先であることなどもある。) (地震前) - 地元公立病院での妊婦健診受診率は、大きな減少傾向はなく、妊婦健診と出産について利便性と信頼性が継続していたと考えられる。 - 初産と第 2 子以降の出産にあっては、同じ医療機関が選択される傾向があった。 (地震後) - 地元公立病院での妊婦健診受診率に大きな変化は見られず、地元で分娩ができない状況となっても、やはり遠くまで妊婦健診に行くことができない方が相当数存在するものと考えられる。 - そのうち、初産の妊婦の妊婦健診受診率は低下しており、理由としては、地元公立病院で出産することができないため、妊婦健診の段階から医師との信頼関係を築くために遠方の医療機関を選択する方が増えたものと推測される。 - 市外へ 2 次避難した方は、概ね市外の医療機関を受診している。 (まとめ) - 地震後の受診率の状況を踏まえると、能登北部管内で出産ができる医療機関があれば、妊婦のみならず、親類縁者にとっても大きな安心材料になると考える。

能登北部 4 市町の母子保健担当課からの回答②



自治体	所見
B	＜妊婦健診から出産まで同じ医療機関を受診＞ 出産できない医療機関を選択した場合、妊婦健診の途中で転院が必要になるため、健診 1 回目から出産できる医療機関を選択している。 ＜医療の質（安全面、安心面）＞ 産科医が非常勤の医療機関は、緊急時の対応に不安があるため、安全面、安心面から産科医が常勤の医療機関を選択している。 ＜自身の受診歴の有無＞ 遠方でも婦人科等への受診歴や、出産歴のある医療機関を選択している。みなし仮設を利用して市外で生活中に受診していた遠方の医療機関を、避難先から戻ってきた後も受診する方もいる。 ＜医療機関の専門性＞ 無痛分娩など、妊婦が希望する分娩方法が選択できるか、また、高齢出産やリスクのある出産に対応できる医療機関かにより選択している。 ＜アクセス＞ 自宅、里帰り先、みなし仮設住宅、避難先等からの距離により選択している。 ＜受診の利便性＞ 出産可能な恵寿総合病院や公立能登総合病院を受診すると、医療機関までの移動と受診で平日 1 日仕事を休む必要があるため、休日に妊婦健診が受診可能な医療機関を選択している。 ＜出産時の自己負担額＞ 出産時の自己負担額が少ない医療機関を、妊婦健診時から選択している。 ＜医療機関のサービス＞ 産前産後のサービスが充実している医療機関を、妊婦健診時から選択している。

能登北部 4 市町の母子保健担当課からの回答③



自治体	所見
C	- 安全面を考慮して選択している。 - 第 1 子や第 2 子と同じ病院。〇〇先生が良い、ということで七尾の病院を選ぶ方もいる。 - 妊婦健診のみではなく、分娩も実施できる医療機関を選択している。（例えば、地元公立病院にも曜日固定で大学病院から産婦人科医、助産師の派遣があり、妊婦健診は可能な状況である。しかし、分娩は出来ないので、地元公立病院で健診を受けず、七尾方面の分娩も可能な医療機関で健診を受ける方が多い。） （能登北部での出産が可能であった当時に七尾以南の医療機関を受診した理由） - 何かあったときにすぐに金沢の病院に搬送してもらえるので、安心感や安全面のため七尾の医療機関を選択していた。 （能登北部→金沢、より、七尾→金沢の方が距離が近いといったことを考えて選択） - 地元公立病院は知り合いが勤務していることが多いので、個人情報問題もあり、嫌だった。 - 分娩回数に応じて割引のある病院を選択した。 - 七尾のクリニックは土曜日も健診を実施していたため選択した。 - わざわざ総合病院で健診を受診する、というイメージがなかった。クリニックがよかった。

自治体	所見
D	• 地元公立病院での出産が院内助産になった頃から、七尾などの医療機関に行く方が増え始めた。能登北部での出産が可能であったときに七尾以南の医療機関を受診した理由としては、土曜日に受診できる七尾のクリニックの影響もあると思う。 • また、院内のアメニティや評判を聞いて（対応がよい等）、受診される方もいた。 • 妊婦健診を能登北部で受診された方は、比較的経産婦が多く、上の子の保育所の送迎等の時間的制約が関係しているのではと思う。 • 七尾の医療機関を選ばれた方は、出産を見越して最初から受診する方や、上の子を産んだのでそこを選ぶ方が多いようだった。 • 金沢方面の医療機関を選ばれた方は、里帰り先が金沢方面の方や、住所を置いたまま居住地が金沢方面でその後入籍して転出された方、不妊治療や持病で受診しているためそのままそこで受診する方等、個別の事情があるようだった。

- 地元に分娩機能があるにも関わらず、妊婦健診を地域外の医療機関で受診している理由は、概ね以下のとおりであった。

<医療安全面・サービス内容>

妊婦健診と出産について同じ医療機関を選ぶ傾向があり、その際、

- ・「異常分娩」に対応できる安全・安心な医療機関を選んでいる
- ・安全面、安心感から常勤の産科医のいる医療機関を選んでいる
- ・無痛分娩等希望する分娩方法が選択できる医療機関を選んでいる
- ・産前産後のサービスが充実している医療機関を選んでいる

<利便性やアメニティ>

- ・休日に受診できる医療機関を選んでいる
- ・医療機関のアメニティや評判を聞いて（対応がよい等）選んでいる

<その他>

- ・知り合いが勤務している医療機関は避けている

- 第2子以降については、「初産と同じ医療機関（七尾市以南）を受診している」という見解と、「上の子の保育所の送迎等の時間的制約があり、能登北部を受診している」という見解があった。
- 今後、こうした見解も参考にしながら、新病院において、妊婦健診を含め、産科医療をどのように提供するのか、検討を進めていく必要がある。

参考資料 2

(妊産婦を対象とした調査・回答)



【調査の目的・方法】

- 公立能登総合病院において、同院を利用する（した）能登北部4市町在住妊産婦の意識を把握するため、
 - ①直近半年間（R8.1.1～R8.6.30）に公立能登総合病院で出産した妊産婦16人
 - ②現在、同院に通院している妊産婦9人の計25人を対象にして、現在の出産体制や今後の出産体制に関する意識調査を、R8.6.29～R8.7.10にWEB上で実施した。

【調査の結果】

- 回答は17名から得られた（回収率：68%）
- 年代別では、25～29歳:6人、30～34歳:5人、35～39歳:6人、市町別では、輪島市:7人、珠洲市:3人、穴水町:2人、能登町:5人、現在の状況別では、妊娠中：4人、出産後3か月以内：7人、出産後6か月以内：6人であった。
- 回答内容は以下のとおり（Q1～25）

【現在の分娩体制について】

Q1.現在、奥能登地域から七尾市または金沢市などで出産する体制について、どの程度理解していますか

	回答	
よく理解している	4	24%
ある程度理解している	12	71%
あまり理解していない	1	6%
まったく理解していない	0	0%
わからない	0	0%
計	17	

94%

Q2.現在の分娩体制について、全体としてどのように感じていますか

	回答	
とても安心している	1	6%
どちらかといえば安心している	2	12%
どちらともいえない	4	24%
どちらかといえば不安がある	8	47%
とても不安がある	2	12%
計	17	

59%

※割合については、小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。
（以降同様）

【現在の分娩体制について】

Q3.七尾市または金沢市で出産することについて、**納得感**はありますか

	回答	
十分納得している	3	18%
ある程度納得している	6	35%
どちらともいえない	2	12%
あまり納得していない	3	18%
納得していない	3	18%
計	17	

Q4.現在の体制について、実際に**大きな不便**や**負担**を感じていますか

	回答	
かなり感じている	6	35%
ある程度感じている	9	53%
あまり感じていない	2	12%
ほとんど感じていない	0	0%
わからない	0	0%
計	17	

Q5.奥能登地域の地元医療機関で分娩できないことについて、**どのように感じていますか**

	回答	
地元で出産できる方がよいと強く思う	7	41%
できれば地元で出産したい	4	24%
医療体制が整っている場所であれば、地元でなくてもよい	5	29%
七尾市や金沢市で出産する現在の形でよい	1	6%
特にこだわりはない	0	0%
わからない	0	0%
計	17	

Q6.地元以外で出産することについて、**不安**に感じることはありますか（複数選択可能）

53%		回答	
	陣痛が来てから病院まで間に合うか不安	15	88%
	移動時間が長い	15	88%
	冬季や悪天候時の移動が心配	14	82%
	上の子の世話が心配	13	76%
	医療機関との距離感が不安	10	59%
	家族の付き添いが難しい	7	41%
	費用負担が心配	4	24%
	宿泊場所の確保が心配	1	6%
	慣れない土地での出産が不安	0	0%
88%	特に不安はない	0	0%

40%
以上
が選択
している

Q7.地元以外で出産することについて、**負担**に感じることはありますか（複数選択可能）

	回答	
緊急時の判断	16	94%
通院の時間	15	88%
体調不良時の移動	13	76%
交通費	9	53%
上の子の預け先	8	47%
家族の仕事調整	6	35%
精神的な不安	3	18%
宿泊費	2	12%
特に負担を感じない	0	0%

40%
以上
が選択
している

【現在の分娩体制について】

Q8.一方で、七尾市または金沢市で出産することに**安心感**はありますか

	回答	
とてもある	3	18%
ある程度ある	9	53%
どちらともいえない	4	24%
あまりない	0	0%
まったくない	1	6%
計	17	

71%

Q9.その理由を教えてください（複数選択可能）

	回答	
医師・助産師などの体制が整っている	12	71%
緊急時の対応が期待できる	10	59%
新生児への対応が安心	9	53%
設備が整っている	8	47%
ハイリスク妊娠にも対応できる	6	35%
距離が遠いため安心とは言にくい	5	29%
知っている医療機関なので安心	4	24%
よくわからない	0	0%

40%
以上
が選択
している

【交通費・宿泊費などの支援制度について】

Q10.県や市町による**交通費・宿泊費などの支援制度**を知っていますか

	回答	
よく知っている	6	35%
ある程度知っている	10	59%
知らなかった	1	6%
自分が対象かどうかわからない	0	0%
計	17	

94%

Q11.**支援制度を利用**しましたか、または利用予定ですか

	回答	
利用した	13	76%
利用予定	3	18%
利用を検討している	0	0%
利用をしない予定	0	0%
制度を知らなかった	1	6%
対象外だった	0	0%
わからない	0	0%
計	17	

94%

Q12.支援制度は、**実際の不安や負担の軽減に役立っている**と思いますか

	回答	
とても役立っている	6	35%
ある程度役立っている	9	53%
どちらともいえない	1	6%
あまり役立っていない	1	6%
役立っていない	0	0%
制度を利用していないのでわからない	0	0%
計	17	

88%

Q13.事前宿泊についてどのように感じますか

	回答	
とても安心につながる	9	53%
ある程度安心につながる	3	18%
どちらともいえない	2	12%
負担の方が大きい	1	6%
利用しにくい	2	12%
よくわからない	0	0%
計	17	

71%

【救急隊による搬送体制について】

Q14.救急隊による搬送体制があることを知っていましたか

	回答		94%
はい、詳しく知っていた	5	29%	
はい、あることは知っていた	11	65%	
いいえ、知らなかった	1	6%	
計	17		

Q15.救急隊による搬送体制があることについて、安心感がありますか

	回答		65%
とても安心できる	3	18%	
ある程度安心できる	8	47%	
どちらともいえない	4	24%	
あまり安心できない	1	6%	
不安がある	0	0%	
計	16		

Q16.妊娠・出産に関して、現在もっとも不安に感じていることは何ですか（複数選択可能）

	回答		40% 以上 が選択 している
分娩時の移動	15	88%	
緊急時の対応	12	71%	
上の子の世話	10	59%	
妊婦健診への通院	9	53%	
家族の付き添い	5	29%	
赤ちゃんの健康	4	24%	
宿泊のこと	3	18%	
自分の体調	3	18%	
産後の生活	2	12%	
出産費用	1	6%	
特に大きな不安はない	1	6%	

【現在の分娩体制について】

Q17.現在の体制で、妊娠・出産はおおむね問題なく進められると感じますか

	回答		輪島市、能登町
そう思う	2	12%	
どちらかといえばそう思う	6	35%	
どちらともいえない	7	41%	
どちらかといえばそう思わない	0	0%	
そう思わない	2	12%	輪島市、穴水町
計	17		

Q18.ご本人またはご家族として、現在の分娩体制に大きな不満はありますか

	回答		輪島市、穴水町、 能登町
かなりある	3	18%	
少しある	8	47%	
あまりない	4	24%	
ほとんどない	2	12%	
わからない	0	0%	輪島市、能登町
計	17		

Q19.（Q18の回答について）その理由を教えてください
（主な意見）

通院等の負担（時間、費用、身体的・心理的負担など）
地元での健診等の提供体制（診察日が限定、緊急時の地元での対応など）
上の子への対応
分娩体制が整っていないのは、奥能登地域の妊婦をないがしろにされていると感じる
緊急時や体調不良時などを考えると、地元で対応できないのは不安
七尾や金沢で出産する体制は安全面では正しい

Q20.今後、特に充実してほしい支援は何ですか

	回答	
地元での妊婦健診や助産師相談	10	59%
交通費の支援	9	53%
緊急時の搬送体制の説明	9	53%
付き添い家族の宿泊支援	8	47%
分娩施設までの送迎支援	7	41%
産後ケア	6	35%
事前宿泊施設の確保	6	35%
宿泊費の支援	6	35%
上の子の預かり支援	6	35%
妊娠中からの個別相談	3	18%
地元での母親学級・両親学級	2	12%
オンライン相談	2	12%
特に追加支援は必要ない	0	0%

40%
以上
が選択
している

Q21.出産場所について、今後どのような体制が望ましいと思いますか

	回答	
できれば奥能登地域で分娩できる体制が望ましい	10	59%
ローリスク妊娠は近隣地域、ハイリスク妊娠は金沢市などの高次医療機関が望ましい	1	6%
現在のように七尾市・金沢市で分娩する体制でよい	2	12%
分娩場所よりも、移動・宿泊・緊急時支援を充実してほしい	3	18%
よくわからない	1	6%
計	17	

65%
30%

	回答者数	奥能登での分娩実施を希望	
輪島市	7	5	71%
珠洲市	3	1	33%
穴水町	2	2	100%
能登町	5	3	60%
合計	17	11	65%

市町別に地元で分娩できる体制が望ましいと考える割合

Q22.現在の支援体制について、事前にもっと説明してほしいことはありますか

	回答	
分娩施設の選び方	5	29%
どのタイミングで七尾市・金沢市へ移動すべきか	2	12%
陣痛・破水時の対応	2	12%
救急搬送の流れ	3	18%
事前宿泊の利用方法	0	0%
補助金・助成制度の申請方法	2	12%
家族の付き添いについて	0	0%
産後の帰宅や支援	0	0%
特にない	3	18%
計	17	

Q23.現在の分娩体制について、よかったこと・安心したことがあれば教えてください
(主な意見)

事前宿泊制度（負担も小さく、出産まで安心して過ごせた）
地元の病院と比べて助産師の人数が多く、常に付き添ってもらえるなど、安心度が高い
妊婦健診から出産まで同じ先生に診てもらえた

Q24.困っていること、不安なこと、改善してほしいことがあれば教えてください
(主な意見)

道路事情が悪く、病院までの所要時間が分からない
移動に時間を要するので、陣痛時など緊急の対応が不安
救急車ではなくタクシーを活用した制度があれば
健診の診療日が週2回と限られており、不便
地元で産科の先生がいるということだけでも安心
事前宿泊の期間延長（あるいは、出産日が遅れた場合の費用負担の説明）
上の子の預け先や精神面での不安

Q25.行政、医療機関、救急隊、地域に伝えたいことがあればご記入ください

できるだけ近くで出産できる病院があるといいと思います。

奥能登に産科ありの総合病院ができれば、かなり安心にお産ができる気がします。県内で産科がない市町は奥能登以外にもありますが、他とは状況が違いすぎると感じます。私はまだ輪島で1時間20分あれば七尾の病院へ到着しますが、珠州や能登の方たちはそれ以上の時間を要します。そして金沢近郊とは違い、私たちにはお産病院の選択肢が少ないのです。直近で七尾しか産めない、補助は七尾の病院のみしか当たらないことを考えると、選択肢が狭すぎます。今後の妊婦さんのためにも奥能登に産科病院があることで不安要素を取り除けそうな気がします。

重大な医療事故が起きないよう、しっかりした医療体制が整っていることが最重要だと思います。妊婦の負担も大変ですが、医療従事者の方にかかなり無理してもらうようなことにならないよう、議論を進めていただきたいです。

第二子(R6.3月生まれ)の退院時の帰り道で交通事故渋滞に巻き込まれた経験から陣痛などが来て自家用車で病院に向かっている時に交通渋滞に巻き込まれた時どうしたらいいのか知りたいです。もしも間に合わない場合の対処法なども知る機会があれば知りたいです。

奥能登で妊婦健診、出産などができるようにしてほしい

奥能登地域にも妊娠されてる方が少なからずいます。

確かに不便なことはありますが、そのために妊娠した時点で病院や役場より様々な制度の説明があります。妊婦さんそして家族にも色々な願望があるとは思いますが、何より母子ともに安全に出産に挑める体制がきちんとあると、思っています。東京から移住しましたが上の子2人は東京の病院で出産しました。分娩時間が確かに短く進みやすい体質でしたので今回3人目ということもあり私自身も慎重になりました。医療機関や地域での制度を理解し、きちんと利用すれば今のままの体制でもいいと思います。ベビー用品売ってるのも七尾や金沢なのでついでに買い物もできて私はラッキーと思っていました！分娩機能だけが全てでは無いと思います。NICU.GCU.MFICUなどの体制がないと結局はハイリスクの方は金沢や七尾になると思うので医療人員問題や奥能登における妊婦の数など総合的に判断して奥能登に分娩機能を持たせないという事だと思いました。

産後ケア何かあれば嬉しいです。地元で出産して良かったと思えるような場所になればいいなと思います。

地域の保健師が七尾、金沢での分娩についてあまり詳しくなかったため、情報収集して詳しく正しい情報を提供してほしい。

奥能登で安心して出産できるよう行政でもっと考えてほしい。新病院では分娩実施しないなどのニュースがありましたが、考え直すべきです。このままでは奥能登の少子化が進む一方です。

- 今回の調査では、「現在の体制」に対して、**不安**を59%^{Q2}が、**負担**を88%^{Q4}が、**不満**を65%^{Q18}が感じており、地元で出産できることを希望する方が65%^{Q5}に上ることが明らかになった。その一方、七尾市や金沢市で出産することに**安心感**を持っている方が71%^{Q8}に上り、安心感を感じる理由として、医師・助産師などの体制や緊急時の対応といった医療体制面を挙げていることも分かった。

（注）不安：59%（どちらかといえば不安：47%+**とても不安がある**：12%）

負担：88%（ある程度感じている：53%+**かなり感じている**：35%）

不満：65%（少しある：47%+**かなりある**：18%）

- 実際の受療行動として、妊産婦の多くは、妊婦健診の段階から、医療体制の整った七尾以南の医療機関を選択し、**安心感**を感じているが、同時に、妊娠期間中に、**不安**^{注2}や**負担**^{注3}、**不満**^{注4}を感じており、それが地元での分娩を求める指摘に繋がっている、と推察される。

（注2）不安：陣痛が来てから間に合うか、移動時間の長さ、冬季や悪天候時の移動の心配 など

（注3）負担：緊急時の判断、通院の時間、体調不良時の移動 など

（注4）不満：妊婦健診の実施日が限られる、移動時間の長さ など

- 行政による支援策（事前宿泊制度、救急隊による搬送制度）については、周知率は高いが、更なる周知徹底が望まれる。また、妊産婦は、「**分娩施設の選び方**」、「**救急搬送の流れ**」、「**どのタイミングで七尾市・金沢市へ移動すべきか**」、「**陣痛・破水時の対応**」といった専門的な説明を望んでいることが明らかとなった。新病院の建設を待たずにできることについては、県、市町、医療機関の協力の下、早めに対応して、妊婦の不安の軽減に努める必要がある。
- 今回の調査では、今後、充実が求められる施策について、**妊婦健診、移動手段、事前宿泊制度の充実、上の子の預かり先の確保など様々な提案**を受けた。今後、こうした提案も参考にしながら、妊産婦の不安、負担、不満をどう軽減し、安心感をどう高められるか、能登北部の産科医療体制について検討を深めることが求められる。